

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400912		
法人名	有限会社サクララン		
事業所名	ひよりの里 2F		
所在地	千葉県千葉市若葉区小倉町875-9		
自己評価作成日	令和5年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事はなるべく手作りを提供しています。コロナ禍で外出もままならないので、食べる事の楽しみを失わないように時々テイクアウトでお弁当など提供し、気分転換をはかっています。天気のいい日はほぼ毎日散歩にお連れしていますし、外出できない時には塗り絵やゲームをしたりDVD鑑賞したりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で全体での外出行事や地域行事への参加などは難しい一年となりましたが、ホーム内では季節の行事を計画的に実施したほか利用者の誕生会、食事やおやつレクなども取り入れて、利用者の楽しみや活動の幅を広げています。面会を控える家族に対しても定期的な電話連絡を通して近況を報告して家族の安心感を高めています。次年度に向けては、ホーム内での行事には家族の方をお呼びして、家族も巻き込んで行事を充実させていくことや、新型コロナウイルスの感染状況を見て、地域の方との関りや外出機会を増やして、利用者の生活の幅を広げていくことも目指していくことにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議では理想の共有をし、その理念に基づいて利用者の思いや願いに耳を傾け、実践できるように話し合っています。	「明るく、元気に」を大切な考えとしています。ホームの理念についてはホーム内に掲示しており、職員が常時目に留まるようにしています。会議や申し送りを通して振り返る機会を設けて職員の理解を深めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で家族以外の外部からの交流はありません。	今年度はコロナ禍の影響もあり、地域行事も中止となり地域との積極的な交流とまでは至りませんでした。今後は社会の情勢なども確認してボランティアの受け入れや地域行事への参加などを検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人たちとの交流や発信ができていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で話し合いの場や情報共有はできていません。	今年度(令和4年度)は、コロナ禍ということもあり運営推進会議は定期的な開催とまでは至っていない状況であり、次年度以降の定期的な開催が望まれます。	定期的に運営推進会議を開催して参加者との意見交換などを通して貴重な意見を収集し、サービス向上につなげて行けることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	若葉区役所などと協力関係を築いています。	市の担当者とは運営上の相談が必要な際は相談できる体制があり、協力関係を築き運営を進めています。コロナ感染者が出た際にはホーム側からも必要な情報を提供して指示を仰ぎ、感染の拡大を防ぐことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の病気を理解し、周辺症状などの状態が見られても身体拘束をしない支援を実践しています。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、毎月の職員会議の中で身体拘束の発生が無いかについて全体で確認しています。職員一人一人の意識も高く、日ごろから身体拘束をしないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	痣や傷があった時は記録に残し、その都度原因や要因についてユニット会議で話し合っています。		

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設側とご家族または成年後見人と話し合いながらよりよい生活が送れるようにサポートしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設側とご家族または成年後見人の個々の疑問点や要望をお聞きし不安な要素がないように契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望があればお聞きし運営に反映させています。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認するほか、電話で近況を報告した際などに確認しています。利用者からの意見や要望は日常会話から収集しています。意見や要望等が表出された際には速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に1回のスタッフ会議と毎月のユニット会議を開催しており、意見交換や提案を聞き入れる場所を提供している。	職員からの意見や要望等については管理者が直接職員から意見や要望を確認するなど日ごろから相談しやすい環境を大切にしています。また毎月の会議を通して職員からの意見に基づき業務や支援の見直しにつなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフのスキルや勤務状態、努力を把握し労働環境がよりよくなるように努めている。毎年昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修募集の書類を事務所に掲示しており、希望者に研修に行ってもいい、知識の向上、スキルアップできるように努めている。無資格者の資格獲得の費用を会社で負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍もあり交流はできていません。		

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをとり、ケアプランに基づいて支援できているかモニタリングをすることにより、よりよい支援ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などで様子、状態をお話し、要望等をお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書があればそれに基づき、入居者、ご家族にアセスメントをとりながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添い傾聴しながら信頼関係を構築していくように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ともコミュニケーションをとり支援につながるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で現在はできていません。	馴染みの人や場所との関係継続の支援に向けては、コロナ禍により馴染みの場所への外出は難しいですが、家族や知人に会いたいとの要望には柔軟に対応していくことでこれまでの関係が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクをしたり、食事をするリビングで入居者の性格、状態、様子を見て必要に応じて席順を決めています。		

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば、応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よりよい支援ができるように常に検討しています。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の聞き取りなどで経過の把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成後定期的にモニタリングをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望、意向をお聞きし状態を把握し、援助サービス計画の方針をたてています。	ケアプランの作成にあたっては、担当者会議において管理者、ケアマネジャー、職員の意見、また家族や本人の意向など総合的に踏まえて作成しています。ケアプランについては定期的にモニタリングを行い目標の達成状況の確認及び評価を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌や業務日誌に記録し情報を共有しています。問題があれば会議で話し合いよりよい支援につなげられるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議で話し合い、良いアイデアがあれば検討し取り入れるようにしています。		

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人にあったサービスが提供できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、それ以外でも24時間報告、相談をし医師の指示を仰げるようにしています。	協力医療機関のクリニックの往診が月に一度あり、往診を通して主治医と連携しています。緊急時においても速やかな対応を可能としています。また、訪問看護の週に一度の来訪や訪問歯科も定期的に訪れ、必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪看やそれ以外でも相談したりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携をとり行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い時期から方針の共有をし支援に取り組んでいます。	看取りに対するホームの方針については、重要事項説明書内に「ひよりの里看取りケアの方針」を示し、利用契約時に家族に説明し、同意を受領しています。ホームでは、利用者本人や家族の要望を大切に終末期のケアまで主治医とも連携して対応していく方針としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議、ユニット会議で定期的に対応を話し合ったり、心肺蘇生の講習を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を実施しています。	災害に備えた避難訓練は年間2回計画しており令和4年度は10月と3月に火災と地震を想定した訓練を実施しています。水害状況についてはハザードマップで確認しています。備蓄品はホーム内に完備して在庫も定期的に確認しています。	今後に向けては夜間の災害や火災等を想定した訓練の実施や策定が義務化された事業継続計画(BCP)についての作成も望まれます。

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ等には十分に配慮しています。	利用者に対して適切な対応が図れるように、毎月の会議の中でも適宜行動や言動を振り返るほか、必要に応じてはチェックシートなども活用して適切な対応が図れているかについて確認する等、ホーム全体で高い意識を持ち取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度ご本人に聞くように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に何回かはテイクアウトを利用したりして、食事に変化をもたらしています。食器拭き等のお手伝いをしてもらっています。	利用者の調理への関りは感染防止のため止めていますが、食器拭きなどの作業には関わられるようにしています。ユニット毎で食事レクなどを取り入れて食事の楽しみにつながるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量の提供をし、水分量もその都度記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。		

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の日常生活動作を見極めてひとりまたは、二人介助でトイレ介助しています。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力し、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導により本人のタイミングを大切にトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し繊維質の多い食事を提供したり、散歩に行ったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4日入浴日は一応決めています、必要時はその日以外でも入浴できるようにしています。	入浴については利用者の体調やペースに合わせて週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。入浴を拒否するケースでは無理強いせず声かけを工夫し本人のペースで入浴できるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な環境でお休みいただけるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病歴、服薬、効能を共有するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた出来るお手伝いや楽しみをみつけて支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良ければほぼ毎日散歩におつれしたり、車でのドライブに出かけるようにしています。	コロナ禍の影響もあり、全体での外出や地域行事への参加などは難しい状況ですが、3月になり気候の良い日にはお花見を計画するなど戸外に出られるように努めています。今後は感染状況を見て外出の機会も徐々に増やしていくことを検討しています。	コロナ禍の状況を見て、外出も今後増やしていくことも検討しているため、利用者が戸外に出かけられる機会が少しずつ増えていけるように取り組まれることを期待します。

グループホームひよりの里(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、一緒にお買い物に行けるようにしていますが、現金は基本施設でお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも家族と連絡が取れるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整えて、安全に清潔に暮らせるように掃除を行い、危険なところがないかチェックしています。	リビングには季節に合わせた装飾品の掲示やホームで作成している通信などを掲示しています。日々の掃除の徹底や感染対策として手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は1人個室で過ごせるようにしていますし、リビングではTVを見たり音楽を聞いたり出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や物は自由に居室に置けるようにしています。	季節に合わせた装飾品を作り掲示するなど季節感が感じられるように各ユニットで工夫しています。掃除も日々徹底するほか毎週大掃除の時間を設けて整理整頓も徹底しています。消毒、換気もこまめに行い、感染予防対策も徹底しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前プレートを貼ったり、トイレ、浴室にもプレートを貼り分かるように工夫しています。		